

島原半島ユネスコ世界ジオパークにおけるユニバーサルデザイン・ジオツアーの整備検討

鎮西学院大学
山口弘幸 開浩一

ユニバーサルツーリズムとは？

○ユニバーサルツーリズムの定義

「すべての人が楽しめるよう創られた旅行であり、高齢や障がい等の有無にかかわらず誰もが気兼ねなく参加できる旅行」観光庁(2014)

観光庁「明日の日本を支える観光ビジョン」(2016)

『高齢者や障がい者なども含めた、すべての旅行者が「旅の喜び」を実感できるような社会を築いていくことが必要』と推進の方向性を明示。

調査の展開と概要

○ジオサイトの巡検

島原半島を3つのブロック(島原市、雲仙、小浜・南島原)に分け、コース可能性を検討。バリアフリー環境及び駐車場や宿泊先等の状況を踏まえる中で、**島原地域が最も企画開発の実現可能性が高いことが判明。**

○モデルコース選定理由(島原地域)

- ①障害者やシニア層の特性やニーズを踏まえている
- ②ストーリー性のあるコース展開
- ③観光・食事・買い物の一体化
- ④各施設ごとに多目的トイレがある

○調査施設

拠点施設

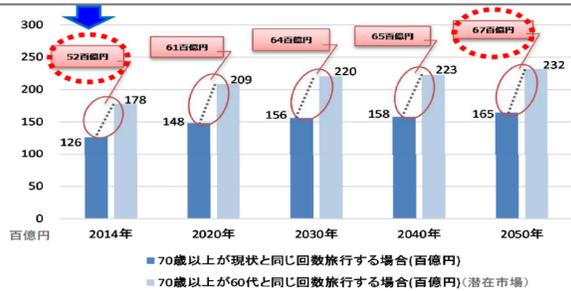
がまだすドーム、みずなし本陣、砂防みらい館、清流亭 (4箇所)
周辺ルートにおける多目的トイレ (12箇所)

ユニバーサルツーリズムによる70歳以上高齢者の国内市場拡大効果

3. 潜在市場規模の試算

国土交通省

仮定
70歳以上の高齢者が60代と同じ回数(1.41回)旅行する場合の市場拡大効果
(70歳以上人口23,846千人) × (60代平均旅行回数1.41回-70代平均旅行回数1.00) ÷ 980万回
平均旅行単価約53,000円 × 980万回 = 約5,200億円 (2014年ベース)



旅行市場の拡大効果約5,200億円
同行者1人を誘発すると仮定すれば、約1兆400億円増
2050年には、拡大効果は約6,700億円、同行者1名の誘発で約1兆3,400億円増

国土交通省国土交通政策研究所(2016)「車いす、足腰が不安なシニア層の国内宿泊旅行拡大に関する調査研究」報告書より抜粋

長崎県 雲仙火山の恵みを楽しもう!
島原半島世界ジオパーク
GEO PARK
ユニバーサルデザイン・ジオツアー(案)

地球の恵みと人との関わりを楽しむ“大地の公園”、それがジオパークです。2009年8月、島原半島は「世界ジオパーク」に日本第1号で認定されました。

平成噴火と水の恵みコース

- ①火砕流体感コーナー(がまだすドーム)
- ②土石流被災家屋(みずなし本陣ふかえ隣接)
- ③旧大野木場小学校(大野木場砂防みらい館隣接)
- ④鯉の水路(清流亭隣接)

食の恵み

- 平成新山グリーンカレー
- 具雑煮定食
- ラーメン
- かんざらし(レモン味)

※ コース内店舗で召し上がれます。

宿泊・温泉

バリアフリー専用室ではありませんが、ゆったりとした客室で、車イスの方がよくご利用いただけます。

HOTELシーサイド島原

自然は人間の生活に恵みと脅威をもたらします。平成噴火とその災害の爪痕をたどりつつ、豊かな湧水と食べ物を楽しみながら自然との共生を考えるコースです。

※ ②土石流被災家屋については段差等があるので介助者との同行が安心です。また改修工事により一部内容変更の予定あり。

研究目的と研究方法

○研究目的

島原半島地域の観光を巡る現状と課題として、観光客の7割が日帰りであり、宿泊客の増加と観光客の滞在時間の長時間化が課題。課題の解決のためには観光資源の磨き上げとともにアクセシビリティの向上や多様な個人客のニーズに対応する基盤整備を図ることが重要。島原半島地域の観光振興とユニバーサルツーリズムの推進を図ることを目的に、障害者や高齢者に配慮した魅力あるジオツアーの企画開発の検討を行った。

○研究方法

雲仙岳を中心とした「自然」、雲仙、小浜、島原の異なる泉質を持つ魅力的な「温泉」、豊かな自然に育まれた「食」を柱に、ユニバーサルツーリズムの観点から介護福祉士と障がい当事者との協働の中でジオサイトや宿泊施設等のバリアフリー環境の点検と整備を行い、今ある資源の中からジオツアーのブランディング化を行う。

1 がまだすドーム
火山や防災、ジオパークまで幅広く学ぶことができる大型展示施設です。
大人 1050円(520円)他
○内は障害者割引
9時~18時
年中無休

2 みずなし本陣ふかえ
雲仙首賢岳噴火による土石流災害の爪痕を保存した「土石流被災家屋保存公園」に隣接した道の駅です。
入場料無料
9時~17時
不定休

3 大野木場砂防みらい館(旧大野木場小学校)
火砕流によって被災した旧大野木場小学校のそばに建つミュージアムです。
入場料無料
9時~16時半
年末年始休

4 清流亭
市内周辺の観光拠点としての機能を持ち、島原オリジナル商品の展示販売や観光情報の提供を行っています。
入場料無料
9時~18時
年中無休

平成噴火と水の恵みコース

拠点の検討例



みずなし本陣かえは、雲仙普賢岳噴火による土石流災害の爪跡を保存した『土石流被災家屋保存公園』に隣接した道の駅です。島原半島の名物である「貝雑煮」や「ろくべえ」、ここにしかない「ラーソーメン」など地元の新鮮素材を活かした食事処と、様々な海産物やお菓子など豊富な品ぞろえのお土産屋さんがあります。火山に育まれた島原半島の「地」と「海」の恵みを味わい、お土産として持ち帰ることができます。バリアフリー駐車場正面の観光案内所では、自由に活用できる車イスが備え付けられており、駐車場右手にはオストメイト対応のトイレがあります。気軽に観光情報の収集とトイレ休憩ができます。

○バリアフリー対応状況



調査結果の概要

○調査結果のまとめ

拠点施設及び周辺ルートの多目的トイレの調査を行う中で、現行の各施設の取り組みから概ねコース設定が可能であること、一部配慮を要する点もあるが、適切な情報提供と無理のないバリアフリー状況の改善、外部サービスの取り込みを行えば、各施設に過重な負担なく展開できることが考察された。

○コース設置の実現可能性を高める検討課題

- ①コース開設に向けた協議の場の設置
- ②観光ガイドやジオガイドへの車イスの移動介助の講習と展開など内部資源の利活用
- ③UDタクシーや移動支援等の障害福祉サービスや介護保険サービスのサービス外での活用
- ④地域の受け入れ体制の強化を推進する支援組織との連携



バリアフリー情報

お土産コーナー



お土産屋さんでは、多くの商品が車イス利用者の目線に合わせて陳列されており、気軽に買い物ができます。

オストメイト対応の多目的トイレ



バリアフリー駐車場の右手にはオストメイト対応の多目的トイレがあります。男女それぞれに設置されており、安心して利用することができます。

○留意点

駐車場から道の駅までのルート



駐車場から道の駅まで点字ブロックが敷設されています。多少路面にてこぼれがあるので、雨の日は注意しながら移動してください。

介助者がいた方が良い場所



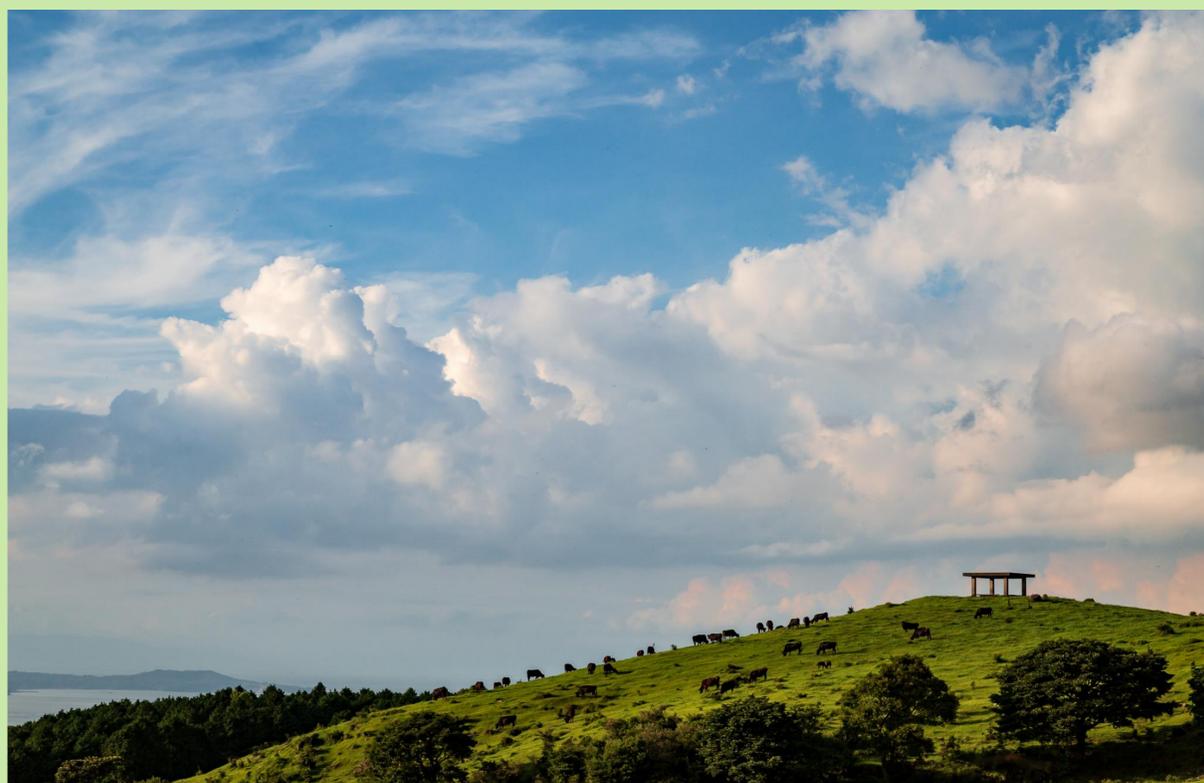
『土石流被災家屋保存公園』に向かう斜面は傾斜が長く、側溝に溝があり、建物内部にも一部段差があります。介助者と一緒に移動の方が安心です。

島原半島ユネスコ世界ジオパークのユニバーサルデザイン・ジオツアーへの期待と可能性

「ジオパークはすべての人のものである。そこにはユニバーサルデザインが必要であり、様々な人の連携が求められる。各地の経験や挑戦をネットワークで共有することで、ジオパークそのものがユニバーサルデザイン化される。」

日本ジオパーク伊豆半島大会宣言(2016)より抜粋

ユニバーサルデザイン・ジオツアーの整備検討を通して、観光地づくりと福祉のまちづくりが連動して進められていくことを期待したい。



本研究は、令和元年度島原半島ユネスコ世界ジオパーク学術研究奨励事業補助金を受けて実施されたものです。